

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ニコちゃん家		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 20日		

分析

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療度が高いお子様が多く、1人に関わるスタッフの人数が多いため、濃厚な支援ができる。 居宅支援もっており、自宅の様子を知っているスタッフが通所につなぐため情報が得やすい。	1対1以上の人員配置。スタッフほとんどが医療的ケアができる。また、いろんな場面に対応できるよう研修を充実させている。	今後はゆとりある体制を活かし、本人を取り巻く事業所さんや学校などと情報共有をより密に行い、24時間の生活を見据えた支援を目指します。また、保護者様との対話の時間を確保し、相談しやすい体制を強化します。
2	地域、通所内でイベントを行い、こどもからおとなまで楽しめる時間を提供している。 生活介護も併用しており異年齢の刺激が多い。	毎月、何かしらのイベントを実施している。日々の活動は保育士のみならず、スタッフ全体から担当を決め、季節に応じた遊びや、テーマに沿った活動などを考え、お父さんたちがワクワクするような場を提供できるよう努力している。	集団活動の中での個別配慮だけではなく、一人一人の発達段階や興味に合わせた個別プログラムをさらに充実させるような取り組みを考案中です。
3	職員の入れ替わりが少ないため、お子さんの長期的な成長過程や微細なサイン（表情、筋緊張の変化、脈拍の変化など）を熟知したスタッフによる、一貫性のある支援体制が維持できている。	定型のアセスメントツールでは測りきれないお子さんの「心地よさ」や「拒否」のサインなどを言語化し、個別支援計画やスタッフ間での共通認識化に努めています。 「待つ」姿勢を大切にしています。	本人が安心できるケアを提供しつつ、本人のやりたい、やりたくないという意思を丁寧に汲み取り、日々の活動選択に反映させる「意思決定支援」をさらに進化させていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	高いケアニーズに応えるため、常に緊張感のある濃厚な支援を維持しているが、職員の身体的負担や精神的なプレッシャーの蓄積が懸念される。	自宅での様子や保護者の感覚を日頃から関わり、継続的に習得することが通所中の安全につながると考えている。可能な限り通所で関わっているスタッフも居宅での関わりを大切にしているが、その体制を維持することは、通所スタッフの身体的負担につながりやすい。	今後も「安心できるケア」と、「活動・遊びの工夫」の二つの柱で日々模索していけるよう、チームワークを高めていきたいと思えます。負担の少ない介助技術の習得、ゆとりをもった時間配分、職員それぞれが相談・意見しやすい環境を作り心掛けて、質の高い支援を継続していきます。
2	集団での関わりや、地域社会に触れる活動機会が限定的になりやすい。	個別のケア優先になりがちで、安全（外気との寒暖差、空気質などを含め）を期すために施設内での活動が中心となりやすい。	行きたい場所の情報収集をはじめ、どうすれば、地域への外出が積極的になるのか考案中です。
3	離職率が低いからこそ、ベテラン層に負担が偏りがちである。緊張感の高いケアが常態化すると、スタッフの心のゆとりが削られていくリスクがある。	熟練したスタッフの経験や助に頼っている部分があり、支援の細やかな手順や配慮事項の言語化が十分とは言えない。誰が担当しても同じケアを提供できるように手順書の整備と情報の共有をさらに進めることが課題です。	分かる人にはわかるという感覚的な支援を、事例検討などを通して言葉や図として見える化していきます。チーム全体で支援の視点をそろえ、どの職員が担当しても常に安定した支援を提供できる体制を目指します。